

第21回 特別講演会

森と川をつなぐ細い糸：

生きものたちの奇妙で複雑な関係

佐藤拓哉 先生（神戸大学理学部）

ハリガネムシは、類線形動物門ハリガネムシ綱ハリガネムシ目に属する寄生虫です。子供の頃、道端をふらふらと歩くカマキリを水につけてみると、そのお尻からにゅるにゅると紐のようなものが出てきたのを覚えておられないでしょうか？彼ら彼女らは日本の溪流ではよく、カマドウマ類に寄生しています。

ハリガネムシは水の中で生まれ、はじめにカゲロウやトビケラといった水生昆虫の幼虫に寄生します。その後、水生昆虫の羽化に伴って陸域に移動し、水生昆虫の成虫がカマドウマ類に捕食されることで宿主を乗り換えます。カマドウマ類の体内でシストから目覚めて成長したハリガネムシは、秋には成虫になります。成虫になったハリガネムシは、再び水の中に戻って産卵しないといけません。そこで、ハリガネムシは宿主の行動を操作して、水に飛び込ませます。首尾よく宿

主を水に飛び込ませると、ハリガネムシは宿主のお尻から脱出して交配相手を探します。一方、宿主は水の中で、ハリガネムシに乗り捨てられます。

本講演では、この恐怖の行動操作を通して、森と川の生態系がつながる！という私たちの研究を紹介させていただきます。寄生生物は私たち人間を含む様々な生物に寄生して悪さをするために、一般にはあまり好かれていません。しかし、寄生虫vs. 宿主という関係から一歩離れて自然界を見渡してみると、寄生虫の知られざる存在意義がみえてくるかもしれません。



- ・開催日時：平成27年11月8日（日）13:00～14:30
- ・場 所：豊田ホタルの里ミュージアム 多目的ホール
- ・受講料：無 料
- ・申し込み：電話・FAX・E-mailにてお申し込みください。
豊田ホタルの里ミュージアム
電話：083-767-0350 FAX：083-767-0355
E-mail：kittsomu@city.shimonoseki.yamaguchi.jp
- ・申込締切：定員になり次第締め切らせていただきます。
- ・定 員：40名

ハリガネムシ類の多様性を明らかにしよう！

ハリガネムシ類は世界中に生息しており、その種数は2000種を超えても言われています。現在、ハリガネムシ類の種の多様性を全球的に明らかにしようという国際プロジェクトが進行しています*。日本では、私たちの研究グループが隠れた種の多様性を明らかにするため、全国各地からハリガネムシとその宿主を収集しています。

このようなプロジェクトに協力していただけないか？興味をお持ちの方は、佐藤（takuya@species.jp）まで気軽にご連絡ください。ハリガネムシの見つけ方やサンプルの保存・郵送方法、サンプル取扱いのポリシー等をお伝えいたします。